

戦略策定における子育て応援のあり方  
～三芳町の特徴を活かした魅力的な子育て環境をつくる～

提言書

平成 28 年 3 月

三芳町子育て応援懇談会

政策研究所「子育て応援」プロジェクトチーム

## 目 次

### 1 三芳町子育て応援懇談会（ P.1 ）

- 1.1 懇談会の提言について … P.1
- 1.2 注目すべき課題 … P.2
- 1.3 目指すべき子育て環境 … P.4
- 1.4 戦略構築の考え方 … P.4
- 1.5 実現に向けた施策への提言 … P.5

### 2 政策研究所「子育て応援」プロジェクトチーム（ P.13 ）

- 2.1 プロジェクトチームの活動内容 … P.13
- 2.2 現状分析 … P.13
- 2.3 新規事業の立案 … P.13
- 2.4 アンケート調査の実施 … P.26
- 2.5 モデル事業 … P.26

### 3 今後の展開（ P.30 ）

## 参考資料

## 1 三芳町子育て応援懇談会

### 1.1 懇談会の提言について

---

国では人口問題に対する基本認識として、人口減少が今後、加速度的に進むため、経済社会に対して大きな重荷になること、また、東京圏への過度の流入が日本全体の人口減少に結びつくことを問題として捉え、長期ビジョンを定めている。その中では、次の3つの基本的視点から人口減少問題に取り組むこととしている。

- ①「東京一極集中」の是正
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ③地域の特性に即した地域課題の解決

この長期ビジョンから、国の総合戦略では「①人口減少と地域経済縮小の克服」と「②まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」を基本的な考え方に据え、施策の方向として4つの基本目標を定めている。

- ①地方における安定した雇用を創出する
- ②地方への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

三芳町でも、こうした国の方向性を踏まえ、現状を分析した上で将来の人口を推計し、その将来展望を示すため、人口ビジョンの策定に取り組んでいる。その中では、国が示す長期ビジョンと同様に、三芳町の人口推移でも減少傾向が示されており、その減少に歯止めをかけるため、人口増加対策が必要と考えられている。この実現に向けて、国の総合戦略の基本目標に沿った地方版総合戦略の策定が併せて進められている。この懇談会では若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるという基本目標に照準を当て、町の総合戦略の策定における基本的な考え方について提言する。

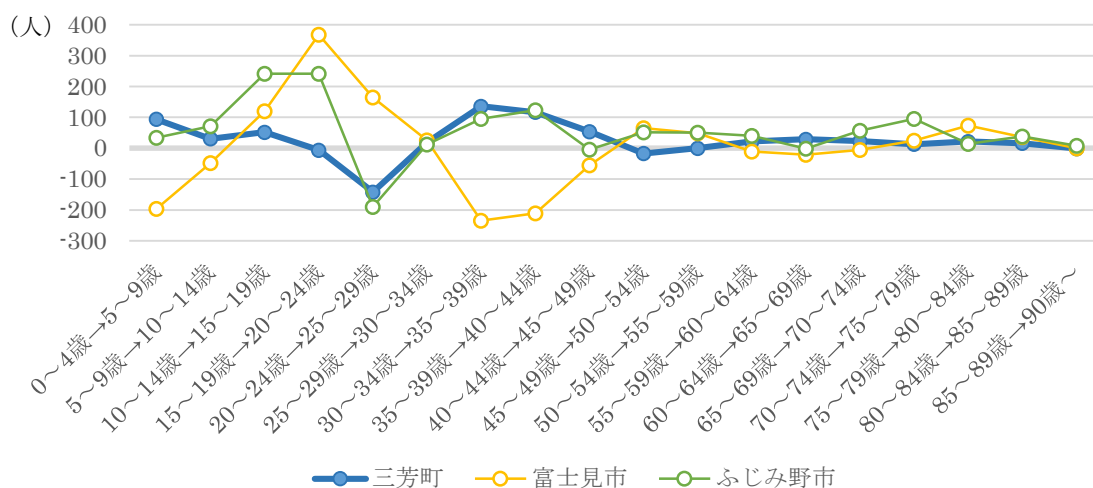
## 1.2 注目すべき課題

三芳町は東京のベッドタウンと呼ばれるエリアに位置している。職場までのアクセスや買い物など生活環境の利便性など、人口流入における競争力の高いエリアとなり、首都圏との関連性が人口移動の特徴に表れている地域となる。次のグラフ「年齢5歳階級別人口移動の状況」からは、人口移動の傾向を確認することができる。

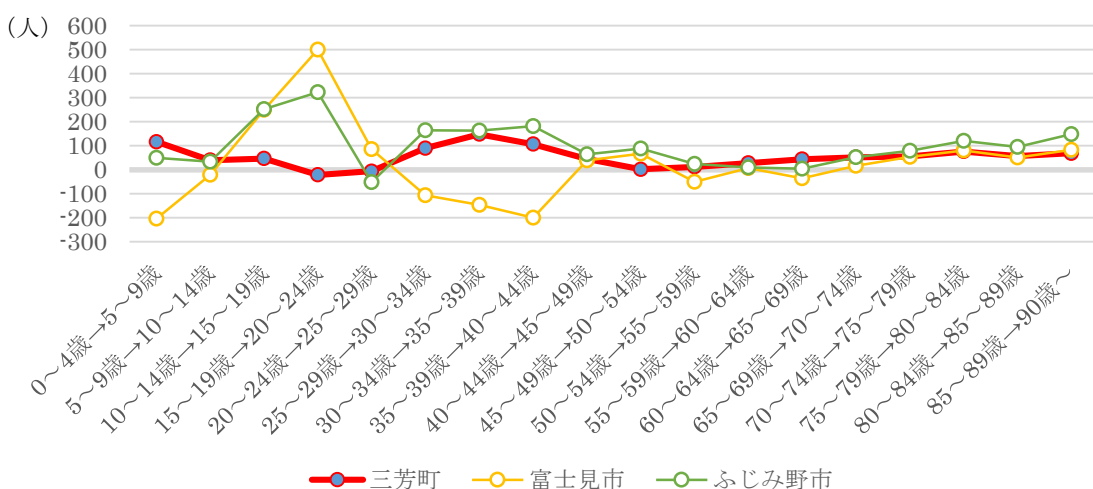
### 男女別年齢5歳階級別人口移動の状況（平成17年→22年）

※平成17年から平成22年における5年後の人口移動による増減を5歳階級別に表したもの

#### ①男性



#### ②女性



【グラフ共通】

- ①周辺自治体では、10代後半から20代前半にかけて転入超過が見られるが、三芳町ではその傾向が見られない。
- ②駅周辺のエリアの特徴として、30代前半から40代前半にかけて転出傾向が強くなるが、三芳町ではその傾向が見られない。

【グラフ：男性】

- ③20代前半から後半にかけて、転出超過傾向が強い。
- ④30代前半から40代前半にかけて、転入超過傾向が強い。

【グラフ：女性】

- ⑤20代前半から後半にかけて、転出超過傾向は弱い。
- ⑥20代後半から40代前半にかけて、転入超過傾向が強い。

一般的に20代前半の世代では、大学等への進学、就職などにより、都心に近づくほど、転入超過の傾向は強まる。こうした中で、三芳町ではこの世代の転出超過の傾向が表れている。これは、駅がない地域であることが影響していることが考えられる。その反面、30代前半から40代前半にかけて転入超過傾向が強く、駅がない地域ということによる土地価格等の優位性が働き、住宅取得のタイミングで転入してくることが推察される。

さらに、女性の人口移動の傾向としては、すべての年代において転出超過傾向が低く、30代前半から40代前半にかけて転入超過傾向が強くなっている。これは、出生の割合が高い年代が転入することにより、人口増加につながる可能性が期待できるものとなる。

こうした可能性を考慮するうえで、住宅の取得を考える30代前半から40代前半の世帯では、子育て環境を居住地選びの判断基準の一つとしていることが考えられる。この世代をターゲットに位置づけ、子育てにおけるニーズを的確に捉え、地域の魅力を向上させることで、さらなる転入増加に結びつけていくことを目的とした戦略の構築が求められる。

そこで、その世代が子育てにおいて不安を感じる要素として、主に3つの事項に注目した。

- ①情報の不足
- ②経済面における不安
- ③地域内での孤立

戦略を立てる際には、こうした不安を解消する仕組みをニーズとして捉え、魅力ある子育て環境が整えることで、選ばれる町としてのセールスポイントにつながるものと考えることができる。

### 1.3 目指すべき子育て環境

---

魅力ある子育て環境の構築に向け、三芳町の特性を最大限に活用し、他自治体との差別化を図らなければならない。「子育てするなら、みよし」と実感し、選ばれる町となるため、次のような子育て環境の実現を提言する。

#### 【目指すべき方向性】

『三芳町の特性を活かした魅力的な子育て環境をつくる』

#### 【戦略の方向性】

- ①子育て世代にとって魅力的な地域の実現
- ②子育ての希望をかなえる生活力の実現
- ③地域で子どもを育てる環境の実現

### 1.4 戦略構築の考え方

---

戦略を実行していくためには、町の財政状況や担い手となる人材の確保が、実現に大きな影響を及ぼすものとなる。そこで、実現性の高い仕組みについて検討を進めるため、次の3つの考え方にに基づき施策提言を行うものとする。

- ①限られた財政の中で、工夫によりサービスを創出するもの
- ②住民や企業との協働により、新たなサービス体系構築するもの
- ③既存のサービスを活かし、効果を増大させるもの

## 1.5 実現に向けた施策への提言

### ①子育て世代にとって魅力的な地域の実現

情報の不足は不安感や孤立感を高めるため、わかりやすい情報提供が安心した子育て環境につながるものとなる。さらに、行政サービスの情報を十分に届けることで、その効果を十分に発揮させることがすべての基本となる。その上で、各機関の相談窓口や事業における連携機能を高める仕組みや包括的な支援を行う拠点の設置により、妊娠・出産時からの切れ目ない支援を目指す。また、子育て世代のニーズを的確に捉え、図書館を始めとする特色豊かな事業をセールスポイントに掲げ、魅力ある子育ての町として知名度の向上を図っていく。

#### 子育て関連情報の充実

- 容易に欲しい情報に辿りつく仕組みの構築
- 各機関が連携した情報提供の実現
- 情報提供ツールの充実

##### 【主な既存事業の充実】

◇ホームページの子育て支援ページの拡充

(懇談会意見)

何をどのように調べれば良いのか分からない人も多く、必要な情報にいかにつまみ着くことができる仕組みを作ることが重要である。

◇各施設による情報発信の充実

(懇談会意見)

必ず町の機関を訪れるタイミング（届出、健診など）において、読み物ではなく、一覧表などにより各施設の役割、取組等がわかることが必要である。また、各窓口で他の施設の情報も把握しなければならない。

##### 【新規事業案】

◇子育て情報発信事業

内容：子育て情報誌の定期発行、子育て支援アプリの作成、新聞メディア戦略など

(懇談会意見)

サービス利用者（子育て中の親など）が編集に携わることが重要であり、また、情報更新における維持管理体制が必要となる。なお、若い人の情報源としてアプリが主流であり、新たな情報発信ツールとして検討が必要である。

## 子育て支援体制の充実

- 様々な場面に応じた相談体制の充実
- 子どもの成長過程に合わせた相談窓口の連携

### 【主な既存事業の充実】

- ◇各施設が提供する相談サービスの利用促進

(懇談会意見)

相談に来ること自体が難しい人のために、訪問型の支援が重要である。この支援の充実は、町の規模が小さいからできる部分であり、周辺自治体と比較して優れた取組としてPRすべきである。

### 【新規事業案】

- ◇子育て世代包括支援事業

内容：町が提供する相談窓口への誘導網の構築（包括的支援拠点の形成）など

(懇談会意見)

妊娠・出産時から就学後さらには18歳くらいまで、年代の変化にも対応する切れ目ない支援体制の構築が重要である。また、簡単な悩みでも相談できる体制に加え、カウンセリングできる体制の構築も検討していく必要がある。

## 特色豊かな各種事業の展開

- 成長過程に応じた事業の展開
- 公共施設を活用した事業によるきっかけ、居場所の創出
- 子どもの読書環境の充実

### 【主な既存事業の充実】

- ◇出産から就学までの各年代に応じた定期的な事業開催

(懇談会意見)

幼稚園入園までの間が親の負担が大きく、フォローが必要となる。

- ◇体育館、児童館における参加者の多い特色ある事業の拡充

(懇談会意見)

児童館の「あそびのへや」、体育館の「キッズプログラム」、公民館の「子育てフリースクエア」など、各種工夫された事業を町のPRに活用すべきである。

- ◇図書館、学校図書、地域ボランティアが一体となった子どもの読書支援

(懇談会意見)

図書館の事業は長年にわたり力を入れてきており、全国的にも優れている。すべ



ての学校に学校司書が配置され、また、地域のボランティアの活動も活発であり、図書館を中心に連携が取れていることから、本好きの子どもを育てる町などアピールポイントとして発信していくべきである。

#### 【新規事業案】

##### ◇公園デザイン事業

内容：既存の公園を活用した魅力ある居場所の創出など

##### （懇談会意見）

大きな公園造成事業ではなく、利用ルールの整備などソフト面からの活用方法を検討し、利用目的が異なる特徴ある公園（ボール遊び専用、雑木林活用空間、冒険あそび広場など）として利便性を高めていくべきである。



## ②子育ての希望をかなえる生活力の実現

子育ての希望をかなえるためには、それを支える世帯の経済基盤が必要となる。そのためには就労の場を得ることで家庭の収入源を生み出すことや子どもを預けて就労できる環境が、子育ての希望を助け、多子化につながることも考えられる。事業所が多く立地する町の特徴を活かす中で、安定した収入と子育てに取り組む時間を確保できる理想的な子育て環境の実現を目指す。

### 就労機会の充実

- 町内企業への就労促進
- 就労情報の充実
- NPO等活動の活性化
- 男性の育児参画

#### 【主な既存事業の充実】

##### ◇各種就労支援の充実

##### （懇談会意見）

企業では人材募集に有料サービスを用いており、町が求人情報を扱えるのならば、需要は高いため、検討する必要がある。

◇新たな就労先の確保に関する事業推進

(懇談会意見)

就労先の選択肢が増えることはいつでも就労できる安心感につながるため、事業を促進すべきである。

◇「イクメンへの道」事業の推進

(懇談会意見)

以前に比べると男性の子育てへの参加は増えているが、共働き世帯が増える中で、男性の育児に対する支援の拡充（父子手帳・小冊子の作成など）について検討していく必要がある。

【新規事業案】

◇子育て世帯就労支援事業

内容：子育て世帯に特化した求人情報を収集したマッチングサイトの構築など

(懇談会意見)

町内の企業内保育室でも三芳町在住の利用者が少ないことから、町内企業の活用も踏まえた検討をすべきである。また、就職の相談ができ、マッチングの仕組みまで検討していく必要がある。

◇子育てサークルの法人化事業

内容：サークルの法人化を支援し、各種事業の担い手を育成、女性の就労機会の創出

(懇談会意見)

子どもの成長に合わせて、担い手が出て行ってしまい、継続することが困難になってくるのが課題となる。リーダーのサポート等のサークル活動を支援する仕組みや新たな就業スタイルとして収入源を創出する仕組みにより、継続する担い手の維持を検討していく必要がある。また、法人化による信用が得られ、寄付が受けやすくなるなどのメリットはあるが、経理書類等負担もありデメリットもあるため、法人化のニーズを見極めていかなければならない。

◇企業の子育て推進事業

内容：企業の研修促進、子育てへの理解普及や空きスペースの活用など

(懇談会意見)

企業のメリットを持たせなければ協力が得られないため、ワーク・ライフ・バランスの向上に寄与する企業活動を表彰、認定するなど、企業のイメージアップにつながる町独自の制度を検討する必要がある。

## 保育サービスの充実

- 保育所、学童保育室の機能拡充
- 共助による保育の推進

### 【主な既存事業の充実】

#### ◇保育所、学童保育室の充実

(懇談会意見)

待機児童を出さないことが安心した就労につながるものであり、他自治体より保育所に入りやすい環境は、PRしていく必要がある。また、学童保育室の拡大にあたっては、父母による運営、NPO運営、元気な高齢者の活用など、広く検討すべきである。

#### ◇ファミリーサポートセンターを活用した地域共助の構築

(懇談会意見)

ファミリーサポートセンターの仕組みは地域内でのつながりを生み出す重要な事業となる。積極的に取り組む自治体が少ないので、力を入れ、PRにつなげることが重要である。

#### ◇子どもの送迎サービスの利便性向上

(懇談会意見)

両親が病気の時など、子どもの送迎サービスが使いやすくなることは子育て家庭の負担を軽減できることから、社会福祉協議会との連携や元気な高齢者などのボランティア等による利用しやすい仕組みを検討する必要がある。

### 【新規事業案】

#### ◇病児保育充実事業

内容：病院託児室との連携など

(懇談会意見)

病児利用者は季節的な流行によりニーズにばらつきが生じるため、コストバランスも考慮して検討していく必要がある。

## 結婚・子育てへの希望創出

- 若者の子育て理解の促進
- イベント活用による魅力向上

### 【主な既存事業の充実】

#### ◇婚活イベントの開催

(懇談会意見)

イベントの名称がストレートなことから、参加することに気後れする人もいる。町が開催する「同窓会」や一緒に作業することを通じて知り合うことを目的とした「農業体験」など、参加のハードルを下げることも必要となる。

◇若者の子ども触れ合い機会の提供

(懇談会意見)

既に淑徳大学では「わくわく遊び隊」など、保育所や公民館での子どもとの交流が行われている。NPOでも大学生ボランティアによる赤ちゃん交流、学習支援教室が実施されており、こうした活動を支援し、拡充していかなければならない。

◇中学生の保育所訪問等の特色ある教育の実施

(懇談会意見)

以前、町の事業として中学生が保育所を訪問するものがあったが、小さい頃からの学習・体験が重要になる。子育て中の母親が先生となり、赤ちゃんを連れて学校に行き、授業を行っている事例があるので、検討していく必要がある。

【新規事業案】

◇結婚・子育て魅力アップ事業

内容：若者に結婚・子育ての魅力伝えるイベントの開催など

(懇談会意見)

家庭の素晴らしさや現実の苦労など、特集冊子や若い親によるイベントを通じて伝えることも重要と考える。



### ③地域で子どもを育てる環境の実現

核家族の形態が増える中で、さらにコミュニティのつながりも希薄になっており、孤立した環境で子育てをする家庭が増えている。子育ての不安や負担を減らすため、家庭外のつながりを地域内で生み出す必要がある。そのため、地域内の交流を生み出す事業が求められる。また、地域の子育てに対する理解を普及させ、地域ぐるみの子育て環境を作り上げていくことを目指す。

さらに、地域とのつながりがない環境で育つことで、故郷としての愛着が芽生えないことも、将来の人口流出につながることも懸念される。情操豊かに育つ環境を地域の特性を活かしつつ作り上げ、郷土愛を醸成し、将来の定住化に結び付けることを目指す。

## 多世代交流の推進

- 地域コミュニティの向上
- 地域見守り体制の構築
- 学校施設の活用

### 【主な既存事業の充実】

#### ◇地区で行われる交流事業の充実

##### （懇談会意見）

子どものドッジボール大会、運動会など、地区によって取り組みに差があり、子どもが参加する地域イベントを活性化させる必要がある。地域交流が生まれることで、どこの家に子どもがいるのか情報共有ができるため、地域の元気な高齢者が活躍できる仕組みを構築し、多世代交流の場を増やすことが重要である。

#### ◇学校応援団等の充実

##### （懇談会意見）

地域と学校との連携が強まる取組は拡充していくべきである。また、父親の学校における活躍の場を拡充することで、子育てに参加する機会を増やす取組が重要である。さらに、就学前までその活動範囲を広げることも検討が必要である。

### 【新規事業案】

#### ◇放課後見守り事業

内容：地域のボランティアにより、学校施設等での子ども見守り体制の構築など

##### （懇談会意見）

学校の管理体制に課題があるが、余裕教室を利用している自治体は多く、クラブや地域のボランティアによるお稽古教室など、検討していくべきである。

## 地域ぐるみで子育てできる環境づくり

- ママ友・パパ友ネットワークの構築
- コミュニケーションの場の創出

### 【主な既存事業の充実】

#### ◇子育てサークル構築事業の充実

##### （懇談会意見）

サークルから発展できるように父親や多世代、独身に至るまで巻込める活動母体を構築することが重要である。

◇各種親子参加型事業の拡充

(懇談会意見)

公民館事業でも社会教育の拠点として、より柔軟な事業展開が必要である。

#### 【新規事業案】

◇キッズコーナー設置事業

内容：空きスペース活用やイベント開催によるコミュニケーションの場の創出など

(懇談会意見)

児童館・公民館・総合体育館・庁舎など公共施設の居場所としての活用について、検討していく必要がある。

### 地域特性を活かした事業の推進

地域の特産品の活用

地域資源を活用した体験事業の展開

#### 【主な既存事業の充実】

◇みよし野菜を活用した事業の充実・収穫体験事業の充実

(懇談会意見)

子育て環境として、緑や土があるということから三芳町を選んでいる人もいるため、その強みを活かしたPRに取り組むことが重要である。

#### 【新規事業案】

◇親子体験ツアー事業

内容：町内資源を活用した農作業体験、雑木林体験、生態系学習、工場見学等のプログラムを定期的に提供するなど

(懇談会意見)

定期的に、1年を通じて季節ごとに楽しめる所を検討する必要がある。また、ツリーイングの講師を育成することによる自主事業化や大学との連携事業、企業タイアップなど、町外からの参加を見込む事業を検討していかなければならない。

◇食育カフェ事業

内容：みよし野菜を活用したお子様ランチメニュー等による食育事業の推進など

(懇談会意見)

中央公民館のクッキングスタジオを活用した事業を進め、B級グルメのように全国発信することも検討する必要がある。

## 2 政策研究所「子育て応援」プロジェクトチーム

### 2.1 プロジェクトチームの活動内容

---

プロジェクトチームでは、戦略的な発想に基づく、新規事業を中心とした政策立案を進め、現状分析、新規事業の立案、その立案内容をテーマにしたアンケート調査の実施、モデル事業の開催などの調査・研究に取り組んだ。新規事業案は、アンケート結果や懇談会の意見を反映するなど、様々な視点を含めながら立案を進めた。また、それらの新規事業案を支えることにつながる‘地域内の子育て支援における担い手‘を生み出すための事業展開について、モデル事業を通じた検証も行った。こうしたプロジェクトチームの研究・立案結果について、次のとおり報告、提言する。

### 2.2 現状分析

---

既存の制度や「三芳町子ども・子育てに関するアンケート調査」結果、三芳町子ども・子育て支援事業計画など、現在の方向性、住民の意向などを参考に、戦略を立てる上でターゲットとする注目すべき課題を洗い出した。

#### 【注目した課題】

地域内での孤立（情報不足・居場所の不足）
就労世帯の支援
地域の子育て環境の強化
少子高齢化の進行

### 2.3 新規事業の立案

---

実現性を高めるため、町の財政状況や担い手となる人材の確保を考慮し、次の視点に基づき、12の事業を立案した。

- ・限られた財政の中での工夫
- ・住民力を活かしたサービスの創出
- ・住民の関わる中で生まれた愛着あるサービス
- ・将来にわたる発展性

子育て情報発信事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページによる情報発信</li> <li>・広報紙による情報発信</li> <li>・健診時等のチラシ配布</li> <li>・公共施設での配布</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報に辿り着くことが困難</li> <li>・町が行っている制度、事業が知られていない。</li> <li>・地域で頼れる情報源がない。</li> <li>・新しい情報の提供が限られている。</li> </ul>
事業内容	<p>①子育て情報誌の定期発行 今年度、こども支援課により作成中。情報更新の実施を進める。</p> <p>②子育て支援アプリの作成 子育て情報を一元的に集めたアプリの作成。 【情報例】 事業開催情報、制度情報、お店情報、公園情報、保育所・幼稚園情報 【編集方法】 子育て中の親、子育て経験を有する方の目線により、知りたい情報（口コミ情報等）を中心に編集。 【担い手】 子育てサークル、NPO 法人等 【財源】 広告収入、企業協賛、会員制部分設定等（付加価値）による会費</p> <p>③新聞メディア戦略 発信力の強い新聞各社への情報提供を強化し、町外へのPRに結びつける。</p>
期待する成果	<p>①子育て情報誌に発行による情報確認の入り口の創出。 町からの子育て世帯へのわかりやすい情報提供。</p> <p>②リアルタイムに近い情報の取得が可能。 SNSのようなつながりの創出。 情報不足の解消。</p> <p>③子育て環境のイメージアップ</p>
事業費	<p>①編集・発行印刷製本費</p> <p>②アプリ作成費・運営費</p>
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の確保</li> <li>・収益性の確保</li> <li>・情報更新の維持</li> </ul>



公園デザイン事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町事業として整備</li> <li>・区画整理事業、開発事業に合わせた整備</li> <li>・行政連絡区との意見交換あり</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間遊ぶ（居続けられる）公園がない。</li> <li>・特色のある公園がない。</li> <li>・禁止事項の多い公園が多い。</li> <li>・公園に対するニーズは高いが、応えきれていない。</li> </ul>
事業内容	<p>①公園整備のシステム構築 公園整備もしくは大規模改修時において、そのレイアウト作成における住民参画のシステムを構築。</p> <p>【システム例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（１）公園整備のテーマの設定（対象者の設定）</li> <li>（２）住民主体のデザイン検討会の設置</li> <li>（３）整備費用が決められた中でのデザイン調整</li> <li>（４）町による公園整備</li> <li>（５）検討会参加者による公園維持管理</li> </ul> <p>②既存公園の活用 現在の公園について、予算をかけずにリニューアルするアイデアを募集。</p> <p>【アイデア例】住民による花壇設置、民間定期イベント開催、自己管理による公園ルールの設定</p>
期待する成果	<p>①地域住民の愛着ある公園の設置 維持管理する意欲の向上 居場所の創出 情報交換の場の創出</p> <p>②既存公園の利用率向上</p>
事業費	<p>①予算なし（制度設計のみで、公園整備費・設計費はその都度設定）</p> <p>②各種消耗品等</p>
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園整備の機会が少ない</li> <li>・ニーズの多様性による意見の集約</li> <li>・担い手の確保</li> </ul>

キッズコーナー設置事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合体育館におけるキッズコーナーの設置</li> <li>・児童館事業の開催</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が集まる場所に長時間過ごせる場のニーズが高い。</li> <li>・いつでも開かれている親同士のコミュニケーションの場が求められている。</li> <li>・親子で出かける先の選択肢が求められている。</li> </ul>
事業内容	<p>①空き店舗・空きスペース活用型キッズコーナー 商業施設内への空き店舗や公共施設の空きスペースへのキッズコーナー設置</p> <p>【対象施設】 大型店舗内や商業集積地の空き家、役場庁舎 7 階 【運営主体】 商業施設、NPO 法人等 【集客方法】 カフェ機能、相談機能、参加型イベント開催 【財源】 施設利用料、企業コラボ型イベントによる協賛、ポスター掲示料</p> <p>②イベント型キッズコーナーの設置 児童館事業の拡大版として、子育てカフェを開催</p> <p>【実施場所】 総合体育館、各公民館等 【内容】 親子参加型クッキングやお茶スペースを有し、各種分野で相談体制も有する。 【運営主体】 児童館等職員、ボランティア 【財源】 通常事業に工夫を加えた形での国補助金等確保</p>
期待する成果	<p>①親同士の情報交換の場の創出 長時間にわたる親子の居場所創出</p> <p>②各種町事業参加へのきっかけ 参加者同士のつながり</p>
事業費	<p>①施設賃料、カフェ運営費</p> <p>②各種消耗品費</p>
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き店舗等の確保</li> <li>・運営費の維持</li> <li>・担い手の確保</li> <li>・子どもの行動を親が自己責任で管理することが必要</li> </ul>

子育て世代包括支援事業	
現在の状況	各種相談窓口等の設置 ・保健センター、こども支援課、児童館、子育て支援センター、保育所、福祉課等
課題	・ちょっとした相談（確認）ができる存在が求められている。 ・各種相談窓口に辿り着くために、利用者の情報を見極める力も必要。
事業内容	①相談窓口の誘導案内ネットワーク構築 妊娠時の相談から切れ目ない支援体制を構築するため、年代ごとに必要な相談窓口への明確な誘導網を構築する。 <b>【内容】</b> (1) 妊娠～出産後の定期健診時の保健センターによるフォロー (2) 保健センター訪問時に、次の年代における保育所への相談、子育て支援センターへの相談の仕方を紹介 (3) 相談項目など、「こんな時は？」というリーフレット等を配布 <b>【ポイント】</b> 常に相談できる場所があることを認識してもらう事が不安解消につながる。 <b>【財源】</b> 子育てガイドブックの活用事業として実施
期待する成果	相談窓口の認知度向上 安心の子育て環境構築に貢献
事業費	案内チラシ等作成費
実現に向けた課題	・相談窓口自体の敷居を感じる方もいる。 ・第1子の時には、相談内容がイメージしづらいため、案内と実態が結びつかない場合もある。 ・現在の制度との区別がつけづらい。 ・子育て支援センター等の包括的支援可能な施設への発展

子育て世帯就労支援事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークによる求人情報の提供</li> <li>・内職相談の実施</li> <li>・町内に事業所が多く、昼夜間人口比率が高い</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労ニーズは高い。</li> <li>・子育て世帯の求める就業スタイルがなかなか見つけられない。</li> <li>・町内事業所の従業員に三芳町在住の方の割合が非常に少ない。</li> </ul>
事業内容	<p>①子育て世帯特化型求人情報の提供</p> <p>子育て世帯に考慮した求人情報を集め、発信する求職マッチングサイトの構築。</p> <p><b>【求人情報】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業に子育て世帯向けの就業シフト設定に協力を依頼。</li> <li>・企業内託児所を有する企業からの求人情報提供依頼。</li> </ul> <p><b>【地域の特性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内には倉庫や工場など、パート等の従業員雇用環境が多く存在する。</li> </ul> <p><b>【運営主体】</b></p> <p>当初…企業への協力依頼：観光産業課、子育て世帯のニーズ確認：こども支援課</p> <p>持続するための運営…マッチングサイト運営会社への移管</p> <p><b>【情報発信手法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町ホームページ上の特設ページ作成</li> <li>・事前登録者へのコミュニティメール送信</li> </ul>
期待する成果	<p>地域の特性を活かした就業と子育ての両立</p> <p>企業の従業員確保</p> <p>子育て世帯の経済的不安の解消</p>
事業費	各種消耗品、コミュニティメール等運営費
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の協力依頼（ニーズが必要：企業の求める就業スタイル）</li> <li>・企業側のメリットの創出</li> <li>・町が運営する際の情報更新</li> <li>・情報収集、発信業務の負担</li> </ul>

病児保育充実事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士見市針ヶ谷保育園への受入委託</li> <li>・病児病後児緊急サポート事業</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急な休暇取得による就業負担もあり、病児保育の受入先が求められる。</li> <li>・医師、看護師との連携も必要であり、受入側の負担も大きい。</li> </ul>
事業内容	病院託児室との連携 職員向け託児室を有する病院に受入委託を進める。 <b>【対象施設】</b> 町内総合病院 <b>【財源】</b> 利用料
期待する成果	両親が就業している世帯への選択肢が増える。 病院のイメージアップ 企業の欠員損失の低減
事業費	利用料以外に不足する運営補助
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営補助の額により、実現が難しいことが想定される。</li> <li>・法的に運営可能かどうか確認が必要</li> </ul>

放課後見守り事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育室の設置</li> <li>・ファミリーサポートセンターの設置</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育室の定員がオーバーしている。</li> <li>・学童保育室の対象が小学校6年生まで拡大している。</li> <li>・世帯の就労希望が増えており、需要が増している。</li> </ul>
事業内容	<p>放課後見守り・居場所づくり</p> <p>地域のボランティアや淑徳大学学生ボランティア等により、遊びや勉強を教えてくれる放課後の居場所を提供する。</p> <p>【場所】学校の空き教室</p> <p>【教室利用】教育委員会との協定締結</p> <p>【対象者】両親が就労している児童、普段の遊び場を探す児童、両親が出かけている児童など</p> <p>【内容】昔の遊びの伝承、勉強の補助、帰宅時の防犯活動</p> <p>【運営主体】地域ボランティア、保育士や教師を目指す学生、スクールガード、自主防犯組織</p> <p>【研修】運営スタッフへの講習会</p>
期待する成果	<p>世代間交流の創出</p> <p>地域ぐるみの子育て環境の構築</p> <p>柔軟な児童の居場所づくり</p>
事業費	ボランティア講習会費、運営消耗品
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の空き教室の利用について、教育委員会側の理解、協力が不可欠。</li> <li>・運営側のボランティアに対する責任等の負担が大きい。</li> <li>・放課後子ども教室の取り組み実施を検討することも必要。</li> </ul>

企業の子育て推進事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マタニティハラスメント等の社会的問題がニュースになる場合があり</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三芳町内事業所の在住従業員の割合が低い。</li> <li>・企業の社会貢献のPRの支援が不足している。</li> </ul>
事業内容	<p>①企業への研修促進活動          企業の従業員向け子育て関連研修の支援や子育て制度についての周知活動を実施する。  <b>【対象】</b> 町内事業所  <b>【内容】</b> 講師派遣、研修開催の促進運動、町の子育て支援制度の周知  <b>【人材育成】</b> 研修講師育成  <b>【運営主体】</b> 職員等  <b>【独自認定】</b> 町で認定制度を構築し、企業PRを実施。</p> <p>②企業の空きスペースの活用          企業の空きスペースを時間貸し等により、子育てサークル活動の場として提供いただく。  <b>【対象】</b> 町内事業所の会議室等の空き利用  <b>【内容】</b> 企業の社会貢献として企業スペースを提供いただき、子育てサークル等の活動の場とする。</p>
期待する成果	住民の就業環境の向上 企業イメージの向上 サークル活動の活性化
事業費	講師育成研修費、認定関連消耗品費
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の取組情報（理解度）を十分に把握することが必要。</li> <li>・企業側のニーズを把握することが必要。</li> <li>・企業の協力体制の構築</li> </ul>

親子体験ツアー事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館事業の開催</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三芳町にふるさと感じる取り組みは多い方がいい。</li> <li>・地域の良さを深く感じる機会を様々な形で提供する必要がある。</li> <li>・父親と一緒に時間が貴重になっている。</li> </ul>
事業内容	<p>①親子体験ツアーのプログラム化</p> <p>町内の特性を活かした親子体験型メニューを構築し、三芳の良さを感じながら親子で思い出をつくるイベントを開催する。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>(1)町内資源の整理  (例) 三富地割遺跡・各種農産物・循環型農法・雑木林・事業所</p> <p>(2)プログラム化  (例) 農作業体験・収穫体験（農法伝授、いも、枝豆、お茶、葉物野菜、景観植物）  昆虫採集（落ち葉堆肥からの幼虫宝探し）体験  ツリーイング・アスレチック体験  食品製造業等の工場見学（直売所巡り）</p> <p>(3)旅行社等とのコラボ（日帰りツアーのノウハウ・民間事業の可能性検証）</p> <p><b>【運営主体】</b>  観光産業課（企画）、こども支援課（周知）、民間旅行社（運営）</p> <p><b>【財源】</b>  参加費、国県等補助金</p> <p><b>【参加対象】</b>  町内在住親子（優先）、町外在住親子</p>
期待する成果	<p>三芳町への愛着向上</p> <p>親子の絆を深める</p> <p>新たな観光資源の創出</p> <p>町外参加者に対する知名度向上</p>
事業費	<p>バス借上料、参加者保険費、各種謝礼、消耗品費</p>
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、農家、地権者の協力体制を構築する必要がある。</li> <li>・持続型事業とするための民間参入の可能性を検証する必要がある。（収益性）</li> </ul>



食育カフェ事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館事業の開催</li> <li>・保健センター事業の開催</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを連れてでも行きやすい居場所が求められている。</li> <li>・食事の悩みを持つ親は多い。</li> <li>・両親が就業している家庭の親子の時間が貴重になっている。</li> </ul>
事業内容	<p>①お子様ランチメニュー作り 子育て中の母親、子育て経験の母親が中心となり、管理栄養士の支援をもとにメニュー作成イベントを開催する。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>(1)特徴あるお子様ランチメニュー (例) 三芳やさいを使うことを条件とする。</p> <p>(2)B級グルメのような人気投票が可能なイベント開催</p> <p>(3)人気メニューを三芳お子様ランチとして、レシピ公開</p> <p><b>【開催方法】</b> こどもフェスティバルの会場内で実施</p> <p>②食育カフェタイムの設定促進 食育をテーマとしたカフェを設置し、上記お子様ランチや食育メニューを提供する。</p> <p><b>【内容】</b> 町内飲食店の開店時間の一部を子育てタイムとして、お子様ランチや食育メニューの提供できるお店を募集。(モデル店舗として、文化会館「福祉喫茶ハーモニー」にも協力依頼。)</p> <p><b>【運営主体】</b> 保健センター(食育情報提供・指導)、町内飲食店</p>
期待する成果	<p>親同士のコミュニケーションの場を創出</p> <p>食育について学ぶ場を設定</p> <p>飲食店の活性化</p> <p>お子様ランチの町としてPR</p>
事業費	<p>衛生管理費、イベント用食材購入費(三芳やさい等)、会場設営費、広報活動費、各種謝礼</p>
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様ランチ開発者によるカフェ設置には調理師免許が必要</li> <li>・町内飲食店の件数が少ない。</li> <li>・イベント開催における衛生管理なども注意が必要。</li> </ul>

子育てサークルの法人化事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種事業から生まれたサークル活動</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入等による後からの参加が難しい。</li> <li>・活動できる時間が限られており、ボランティア的な活動が厳しい。</li> </ul>
事業内容	<p>①ワークショップ等の開催</p> <p>関心の高いテーマをもとに集まった参加者をつなぎ、運営事業の企画立案により、活動イメージを共有するグループのサークル化を促す。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>リラックスした雰囲気の中、各グループに分かれテーマを選択し、企画立案を行う。</p> <p>(例) 各提案事業を参考にテーマ設定 キーワードを参考にテーマ設定</p> <p><b>【参加者】</b></p> <p>児童館、保健センター、保育所、幼稚園等の利用者への参加募集、広報等の募集</p> <p>②法人化講座の開催</p> <p>上記ワークショップによる立案内容を実現するため、そのグループの活動を組織化するための講座を開催する。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>ワークショップ立案内容を題材として、サークルの設置から法人化に至るまでの講座を経験者等の指導のもと開催する。</p> <p><b>【参加者】</b></p> <p>上記ワークショップの参加者へのアプローチ、立案内容を公表の上広く募集</p> <p><b>【最終目標】</b></p> <p>子育てサークルの設置、将来の法人化に向けた目標の設定。</p>
期待する成果	<p>新たな就業スタイルを自らの手で創出</p> <p>各種事業の担い手の発掘</p> <p>新たな子育てサービスの提供</p>
事業費	ワークショップ、講座開催費（講師謝礼、運営消耗品、保育謝礼）
実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの参加者を集めるに工夫が必要（集客性の高いイベント等）</li> <li>・忙しい子育て世帯を対象とする配慮が必要（開催時間、場所等）</li> </ul>

結婚・子育て魅力アップ事業	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題として未婚率の増加、晩婚化の傾向</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未婚率による少子化の加速</li> <li>・晩婚化による第2子以降の減少など</li> </ul>
事業内容	<p>①未婚の若者向けセミナーの開催 若者をターゲットにした結婚・子育ての魅力伝えるセミナーを開催する。</p> <p><b>【対象】</b> 町内在住・在勤の10代後半、20代の未婚者</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>(1)講演 有名人(ママタレントなど)による結婚生活・子育ての楽しさ、大変さ、家族の素晴らしさなどを講演する。</p> <p>(2)交流 交流の立食パーティ等を開催し、出会いの場をサポートする。</p> <p><b>【運営主体】</b> 行政主体ではなく、民間事業として開催することが望ましい。</p> <p>②若者と乳幼児との交流事業 若者が乳幼児と触れ合う機会を持つことで、子育てへの希望を感じていただく。</p> <p><b>【対象】</b> 町内中学生、大学生等の学生</p> <p><b>【内容】</b> 保育所・幼稚園の交流事業</p>
期待する成果	<p>結婚・子育てに対する希望の創出 将来的な出生率の向上</p>
事業費	イベント開催費用、講師謝礼
実現に向けた課題	<p>①未婚の若者向けセミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の結婚観に踏み込み過ぎることについての意見あり(アンケートより)</li> <li>・定住化を含めた開催後の事業展開が求められる。</li> </ul> <p>②若者と乳幼児との交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の交流事業を確認し、その事業をベースに拡充を図る。</li> </ul>

## 2.4 アンケート調査の実施

---

上記の事業立案について、ニーズを捉え、住民意見を反映するため、下記のとおりアンケートを実施した。

**【実施時期】**

平成27年7月1日・2日配布

平成27年7月8日・9日回収

**【対象者】**

町内の3児童館（藤久保・北永井・竹間沢）で開催されている「あそびのへや」の参加者を対象として実施。

**【回答数】**

55人

**【アンケート結果】**

参考資料参照

## 2.5 モデル事業（子育て応援対話型イベント）の開催

---

①イベントの企画について

チーム内で提案した施策について、子育て中の親同士の交流を生む仕掛け、居場所づくり、参加意欲、事業の継続性、担い手の発掘、NPO法人化などの可能性を検証することを目的として、子育て応援対話型イベントを開催した。

②みよし野菜を使った「お子様ランチクッキング！」

**【目的】**

参加者同士の交流を図りながら料理をすることで、‘つながり’を生み出すとともに、イベントを通じて居場所づくりや参加意欲につながる仕掛けについて、検証することを目的とする。

**【内容】**

「お子様プレート みよし野菜を使ったランチ」

→子どもの発育を意識するとともに、大人も一緒に食べられ、さらに子育てに忙しい中で工夫した時短テクニックを意識した献立

**【講師】**

大東ガス(株)への委託により、講師派遣

**【対象】**

三芳町内在住の子育て中の方（就学前の幼児）

**【イベント運営】**

保育受入：10名預かり

保育士3名体制

子ども用お菓子、お茶を用意

周知活動：児童館、公民館、保健センター、図書館、子育て支援センターにチラシ配布、ホームページ掲載

委託契約：材料準備、会場設営、人員確保、献立作成

人員体制：受付…職員 講師・スタッフ…4名

**【参加者概要】**

参加者：8名

参加者間で既につながりのある方もいたが、同じ調理作業を通じて、交流が生まれていた。また、調理の時間は子どもを保育に預け、作業に集中することができ、子どもと一緒に食べるという目標も加わり、前向きな雰囲気に包まれていた。

**【今後への提言】**

この事業のニーズは高く、定期的な開催が求められている。そこで、次のような方法で実施していくことを提案する。

- ・目的：子育て中の親が交流できる場所となり、親と親の‘つながり’を生み出すとともに、子どもの食育に寄与することを目的とする。
- ・開催：定期的な開催による認知度の向上が重要である。さらに、イベントの魅力を増すため、メニューの企画段階からのイベント化や将来的なB級グルメも見据えた事業展開が求められる。
- ・募集：家に引きこもる傾向があり、地域内での孤立が懸念される方の参加を促すことを一番のターゲットとすることが求められる。広報紙の他に、必ず行政が接触できるタイミングでの募集周知が効果的と考えられる。
- ・運営：子育て世代の参加には、保育が必要となる。預かる年代も幅広く対応できるよう保育体制の充実を考慮しなければならない。

場所にはこだわらず、民間のキッチンスタジオとのコラボも検討していく必要がある。

- ・活用：‘つながり’が生まれた親が、地域内の子育て支援における担い手となるよう人材育成に結び付けていくことが求められる。



③みよし子育てカフェ～みんなで話そう、これからの子育てのこと、三芳のみらいを～

**【目的】**

地域で何ができるのかを発見し、その支援の輪を広げ、さらには自分の新たな就業スタイルを確立できるNPO等の法人化を示すことで、地域活動に参加する‘きっかけ’づくりと地域の子育て支援の人材育成につなげることを目的とする。

**【内容】**

◇おはなし（基調講演）

「地域の子育てをささえるチカラ～NPO 設立までの道～」

◇おしゃべりテーマ（意見交換会）

「あなたができる子育て支援」

### 【対象】

子育て中の方、子育て経験者、子育てに関心のある方

### 【イベント運営】

保育受入：6名預かり

保育士2名体制

子ども用お菓子、ジュースを用意

周知活動：児童館、公民館、保健センター、図書館、子育て支援センター、  
ファミリーサポートセンターでのPR、ホームページ掲載

講師依頼：NPO 法人わこう子育てネットワーク代表理事 森田圭子氏

人員体制：受付・会場設営…職員 講演・進行…講師

### 【参加者概要】

参加者：6名（うちお子様ランチクッキング参加者 1名）

竹間沢児童館や子育て支援センターで既にサークル活動に参加している方も多かったが、‘つながり’を広げることが目的として参加してきたことが窺えた。また、どちらの施設にも参加している人を通じて、新たな‘つながり’が生み出されていた。

### 【今後への提言】

子育て世代が意見を交換する場として、このような企画に対するニーズが高いことが確認できた。しかしながら、今後、地域の子育て支援の担い手育成を進めていく中では、回を重ねていく必要があると考えられる。人材の発掘という面では可能性を感じることができた。

- ・目的：子育て世代の‘つながり’を生み出し、それを強固にしていくことで、各種の担い手として人材を育成し、その先にNPO等への団体設置に結び付けていく。
- ・開催：複数回にわたり、開催していくことで、地域でできる活動をイメージ化していくことが必要となる。
- ・募集：人材の発掘を考える中では、多くの人数が出席することが求められるが、将来的な核となる人材を育成していくには、少人数による参加の中で、内容の濃い意見交換を行っていくことも効果が高いものと考えられる。
- ・運営：クッキングイベントと同様に保育の体制が必要となる。  
保育場所と会場が隣接することで、子ども達の動向が気になっ

てしまう面もあり、開催場所を考慮していく必要がある。

- ・活用：地域の核となる人材を見出していく中で、その活動の受け皿は必要となってくる。積極的な活動については、柔軟に支援できる体制が必要となってくる。





### 3 今後の展開

平成28年度を開始年度とする第5次総合計画及び地方版総合戦略では、子育て分野を重点的に取り組むものとして、位置づけられている。こうした中で、「地域の特性を活かした魅力的な子育て環境をつくる」という方向性が実現されていくことが、町の内外にアピールできるものとなり、選ばれる町となっていくものと考えられる。既存の施策、事業を拡充させていくことも必要であるとともに、戦略的にターゲットを捉え、これまでにない事業の創出や既存事業を活用した新たな事業を展開していくことにより、大きく効果を引き出すという考えも必要となる。

しかしながら、新規の事業展開については、財政面や人材面の状況が大きな障害となってくる。そこで、住民力が発揮される環境づくりが、新規の事業展開の実現を大きく左右すると考えている。今年度、モデル事業の開催を通じて、地域の核となる人材を見出せる可能性は十分にあることを確認することができた。お子様ランチクッキング事業では、子育てに忙しい世代の参加を引き出す糸口を確認し、みよし子育てカフェ事業では地域の子育て支援の担い手となるポテンシャルを感じている。今後は、地域の人材育成を発展させ、そこで生まれた担い手が組織化され、活動が担保されていくことを見据え、積極的な住民活動を柔軟に支援できる体制を整えていくことが求められる。行政としては職員の不足によるサービスの低下を補うメリット、法人化した団体としては、施設運営や支援事業の委託など、団体の収入源として活動基盤としていくメリットなど、WIN-WIN の関係を生み出していくことが、大きな成果を生み出すものと期待される。まずは担い手を生み出し、その先に新たな子育て支援を創出していくことで、魅力ある子育て環境の実現につながるものと考えている。

本提言が、子育て環境をアピールできる町を目指すことに寄与し、住民力を十分に発揮できる地域になる‘きっかけ’となることを期待する。

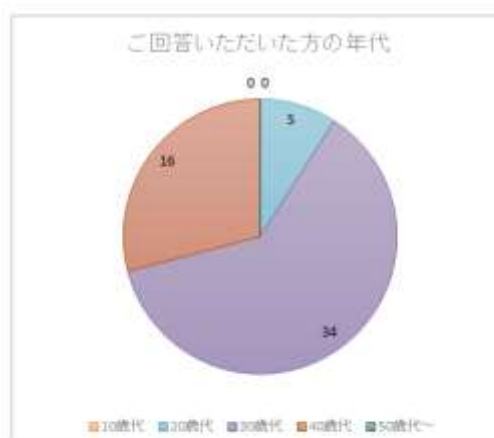
## 参 考 资 料

## 1 プロジェクトチームによるアンケートの実施結果

### アンケートの実施

対 象	町内の3児童館(藤久保・北永井・竹間沢)で開催されている「あそびのへや」参加者を対象として実施。  【「あそびのへや」の概要】 親子のふれあいを深め、乳幼児期親子の友だちの輪を拡げることが目的とする。 ・ひよこクラス(6か月～2歳未満) ・こあらクラス(2歳以上)
実施日	7月1日・2日 アンケートの配布 7月8日・9日 アンケートの回収
回答数	55人

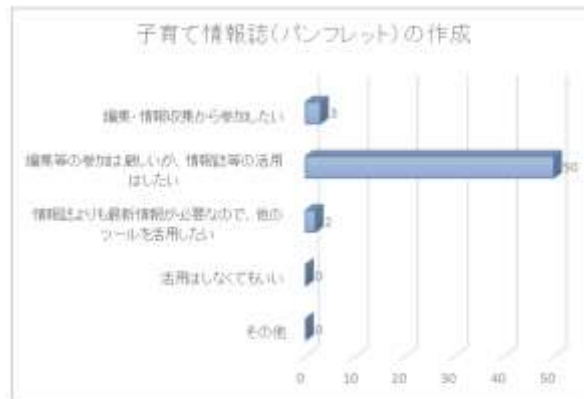
### 回答者の情報



## 事例①

### 子育て情報誌（パンフレット）の作成

子育ての情報不足による孤立を防ぐため、様々な子育て情報をパンフレット等により提供する。  
なお、編集については口コミ情報なども盛り込み、住民参加形式により実施する。



#### 【主な意見】

- 定期的な発行希望！
- 情報誌だとコストがかかりそうなので、まとめてホームページを作成してみては？と思いました。

## 事例②

### 子育て支援アプリの提供

子育てに役立つ情報を中心として、住民主体で情報提供するアプリを開発・提供する。  
付属機能として、お遊びソフトなど、子どもと一緒に使える機能など、幅広い利用を想定する。



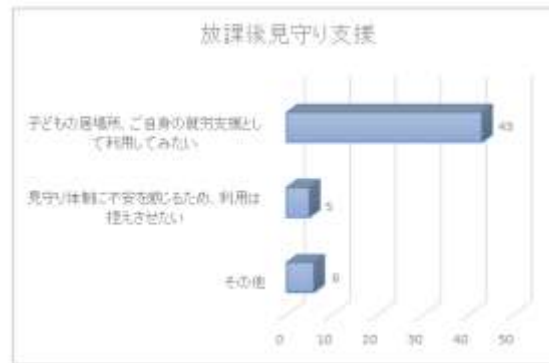
#### 【主な意見】

- ある程度の年齢になったら利用すると思う。
- 子ども用のソフト、子どもも使えるアプリはいいと思います。
- ネットによる犯罪も増えているので、あまり賛同出来ません。子どもも使用出来てしまうと、子どもはそればかりになり、外で体を動かす事が減ったり、子どもにソフトばかりで遊ばせてしまい、子どもと遊ばない親も増えてしまうのでは。
- ガラケーなので

### 事例③

#### 放課後見守り支援

就学児童を対象として、学校の余裕教室を活用した子どもの居場所を提供する。  
なお、地域の高齢者の方々のボランティアにより見守り体制を構築する。



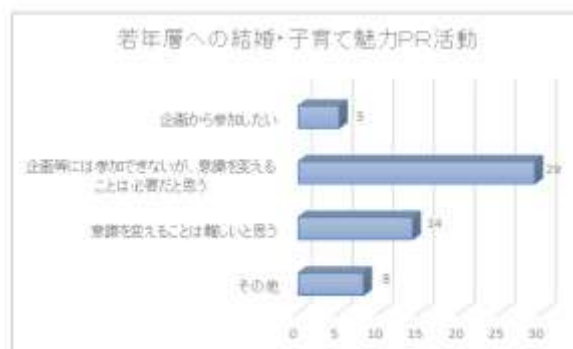
#### 【主な意見】

- 自分の頻度にもよるが、ボランティアとはいえ、当人の人格等、町で確認のうえ構築してもらいたい。
- 金額によっては、高い場合はスポーツ教室や音楽、園工など習い事みたいなものを含めてほしい。
- 現状でいいと思います。宿題の面倒やおやつもあると聞いているので・・・
- (1回300円まで) 地域の高齢者と関われるのは素晴らしい！！一緒にいろいろ教えてもらったり、体験してほしい。
- 今は必要としていない。
- 今はまだ働いていないので、将来的に活用してみたい。

### 事例④

#### 若年層への結婚・子育て魅力PR活動

結婚しなくてもよいという若者が増える中で、結婚生活や子育ての楽しさ、家族の素晴らしさを伝え、意識の変化を期待する事業とする。



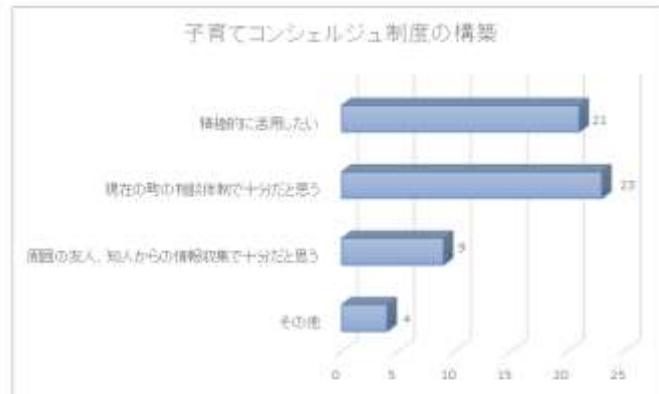
#### 【主な意見】

- 町だけの取り組みでは難しいと思う。
- 町のPRだけでは意識は変えられないと思う。
- それぞれの人生設計の問題であり、他人が口出しできることではないと思う。それよりは、産休、育児復帰後に安心して働ける制度が必要。あっても取りにくい空気が問題だと思う。
- 人それぞれなので意識の変化への期待は賛同できない。今はLGBTの問題もあり、デリケートな事なので・・・
- 町合コンなど、あっても良いと思う。
- 難しいというか、なくても良いと思う。
- 意識を変える事は必要だと思うが、大変さも伝えた方が良く思う。楽しさと大変さの両方を伝えた上で考えて行動してもらおう事が大切だと思う。そうでないと、離婚や育児ノイローゼや虐待に繋がりがねない。

## 事例⑤

### 子育てコンシェルジュ制度の構築

子育てにおける制度・サービスを紹介、提案する専門家を設置する制度。  
時間のない子育て世帯に柔軟に対応する相談サポートサービスの提供を想定する。



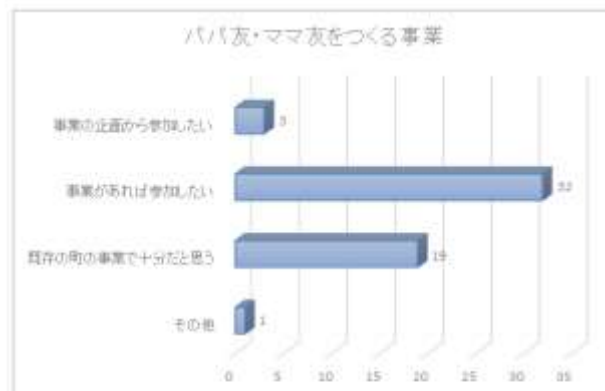
#### 【主な意見】

- ・情報は欲しいが相談するほどではない。でも、必要としている人もいるかも・・・と思う。
- ・内容がわからないので・・・
- ・現在の町の相談体制との違いがよくわかりません。
- ・相談ではなく、本当に家事などサポートしてくれるならうれしい。
- ・町の相談とコンシェルジュを書く違いがよく分からない。

## 事例⑥

### パパ友・ママ友をつくる事業

既存の事業に参加するタイミングを逃した人など、不特定多数を対象としたパパ友・ママ友などのつながりを作る事業を開催する。



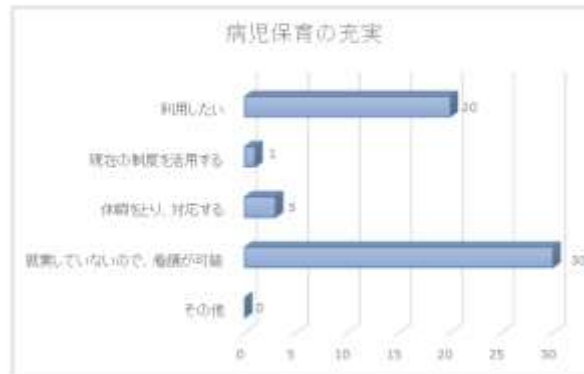
#### 【主な意見】

- ・結局は「仲良しグループ」になってしまうと思うので、必要ないと思う。
- ・出席から三芳に住んでいる人はいいが、途中から引っ越してきたりすると、なかなかとけこめない。
- ・もっとアピールが必要だと思う。知らなかったという人が多かった。
- ・ただ集まるのではなく「イヤイヤ相談会」「男の子ってどんなの会」など興味のあるイベントに参加できるのが良い。

## 事例⑦

### 病児保育の充実

就労を支援するため、病児保育の受け入れ拠点を民間保育室等に設置を依頼。（病院併設を中心に）



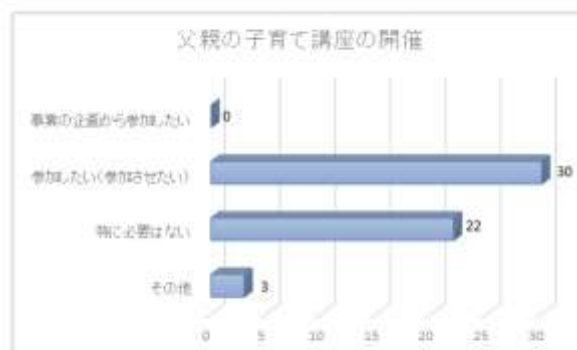
#### 【主な意見】

- ・休暇をとれない場合に利用。
- ・ファミリーサポートに登録はしているが、やはり他人ということ、近隣の市で事件があったことなどあって不安。私の地元では小児科が病児保育をしてくれるので具合が悪い時も安心だった。小児科がやることは難しいと思うが、保育園などでやってくれると嬉しい。針ヶ谷保育園で病児保育としてくれることを知らなかった。
- ・三芳町が無料ですべき。
- ・利用できるものが少なすぎる。
- ・受け入れのキャパを広げてほしいです。
- ・針ヶ谷保育園の2000円はパート代がなくなる。高い。

## 事例⑧

### 父親の子育て講座の開催

子育てに参加したいが、どのようにすればよいのか分からないという父親を対象として、実践的な講座を開催する。



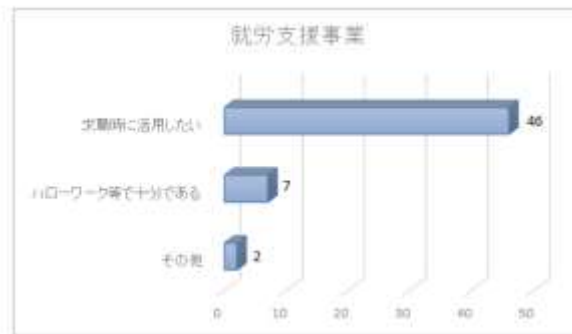
#### 【主な意見】

- ・子育ては月齢とかによっても全然内容が変わってくる。その都度参加させるのは難しい。
- ・父親だけでは行かないと思うので夫婦なら参加できる。
- ・男性同士の情報交換も出来るので良いと思います。
- ・休みがなかなかとれない。
- ・父親と子どもだけの参加プログラムがあると、きっと行きやすいと思います。
- ・カメラ講座やビデオ講座を開いてほしい。

## 事例⑨

### 就労支援事業

三芳町に多く立地する工場や倉庫のパート・アルバイト情報等を求職者の条件とマッチングする民間サービスの起業促進。



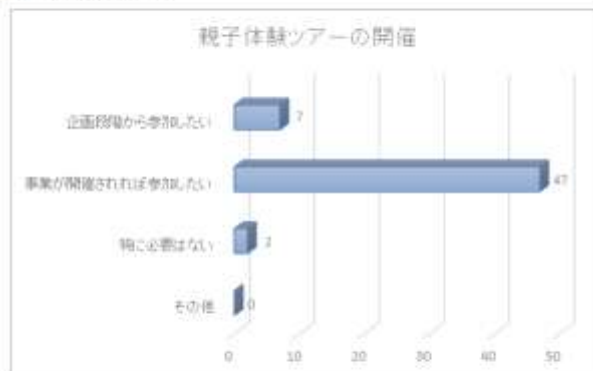
#### 【主な意見】

- ・私は専任中なので、利用は今のところしません。なのでよくわからない。
- ・せっかく近くに工場など多いのに、パートタイムで働ける時間に50代以降の人が多く働いていて若い人がなかなか入れない。
- ・ハローワークとの違いがわかりません。

## 事例⑩

### 親子体験ツアーの開催

三芳町での思い出をたくさん作り、地域への愛着を深めるため、親子参加型体験ツアーを開催する。（農業体験、昆虫採集、工場見学等）



#### 【主な意見】

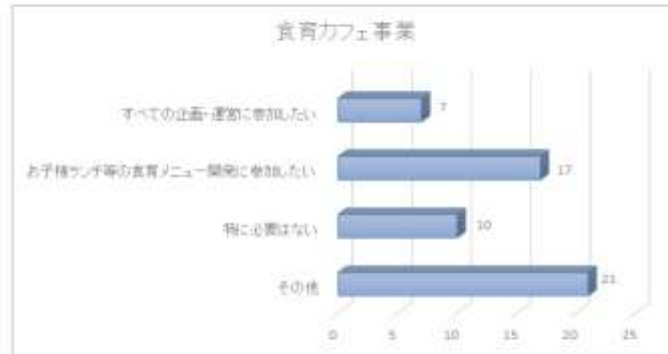
- ・交通手段による。（車、自転車がないため）
- ・都会化するよりも、三芳町はこの田舎っぽさがある所も魅力の1つだと思うので、事例10の企画は非常に良い企画ではないかと思います。私自身三芳町で生まれ育ち、同級生も三芳町が大好きと言う人ばかりですし、実際今も三芳町に住んでいる同級生は沢山います。そんな三芳町の良い所を町内皆でさらに共有して高めあったり、外にも発信出来る様な企画が今後さらに増えていったら素敵だと思います。町ののんびりとした穏やかな雰囲気、人々の温かさが大好きです。自分の子ども達にもぜひそう思ってもらえるような町であってほしいです。



## 事例⑪

### 食育カフェ事業

子育て家庭を対象としたカフェを設置し、食への関心を高めるとともに地場産品の活用等など地域性を考慮したイベントとし、情報交換の場を提供する。



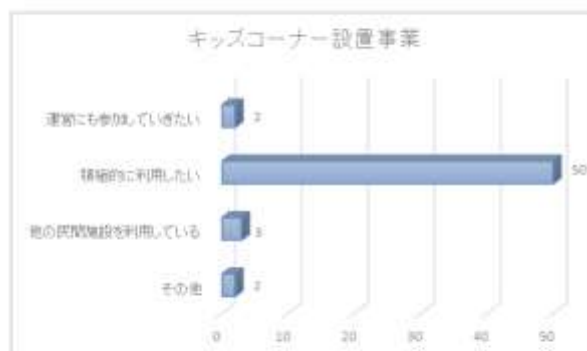
#### 【主な意見】

- あれば利用してみたい。
- 交通手段による。
- 企画・運営・開発に参加できないがイベントがあれば行こうと思う。
- イベントには参加したい！
- 児童館や公園の近くにあると良いと思います。遊んだ後に友達とごはんが食べられると仲も深まると思うので。
- イベント開催の際はぜひ参加したいです。
- カフェがあれば利用したい。武蔵浦和の桑の実保育園では離乳食カフェというものがあるらしく、三芳にもあればいいなと思っていた。子どもの食事で悩んでいるママさんは多いと思うので、家でも活かせるメニュー提案型の離乳食（幼児食）カフェがあれば、ぜひ利用したい。
- アレルギーを持っているお子さんが安全に外食できる場所をもっと提供してほしい。安全なメニューが少ない。

## 事例⑫

### キッズコーナー設置事業

子どもに目の届く範囲で、親同士の情報交換が可能なスペースの設置をする。  
(カフェ等民間施設との持続可能な共同事業として検討する。)



#### 【主な意見】

- 親同士の情報交換なら、児童館（なかよし広場）で充分だと思えます。カフェってお金がかかりますよね。仲良しグループのたまり場になって行きずらそう。
- 竹間沢方面は特にカフェなどが少ないため、親同士交流したいのにできない。
- 特に必要ない。
- 都内までいけないのでぜひ三芳町にもつくってほしい。

### 事例⑬

#### 子育てサークルの法人化

子育てサークルをNPO法人にして、講演会等の事業により主婦等の仕事の場を創出する。



【主な意見】

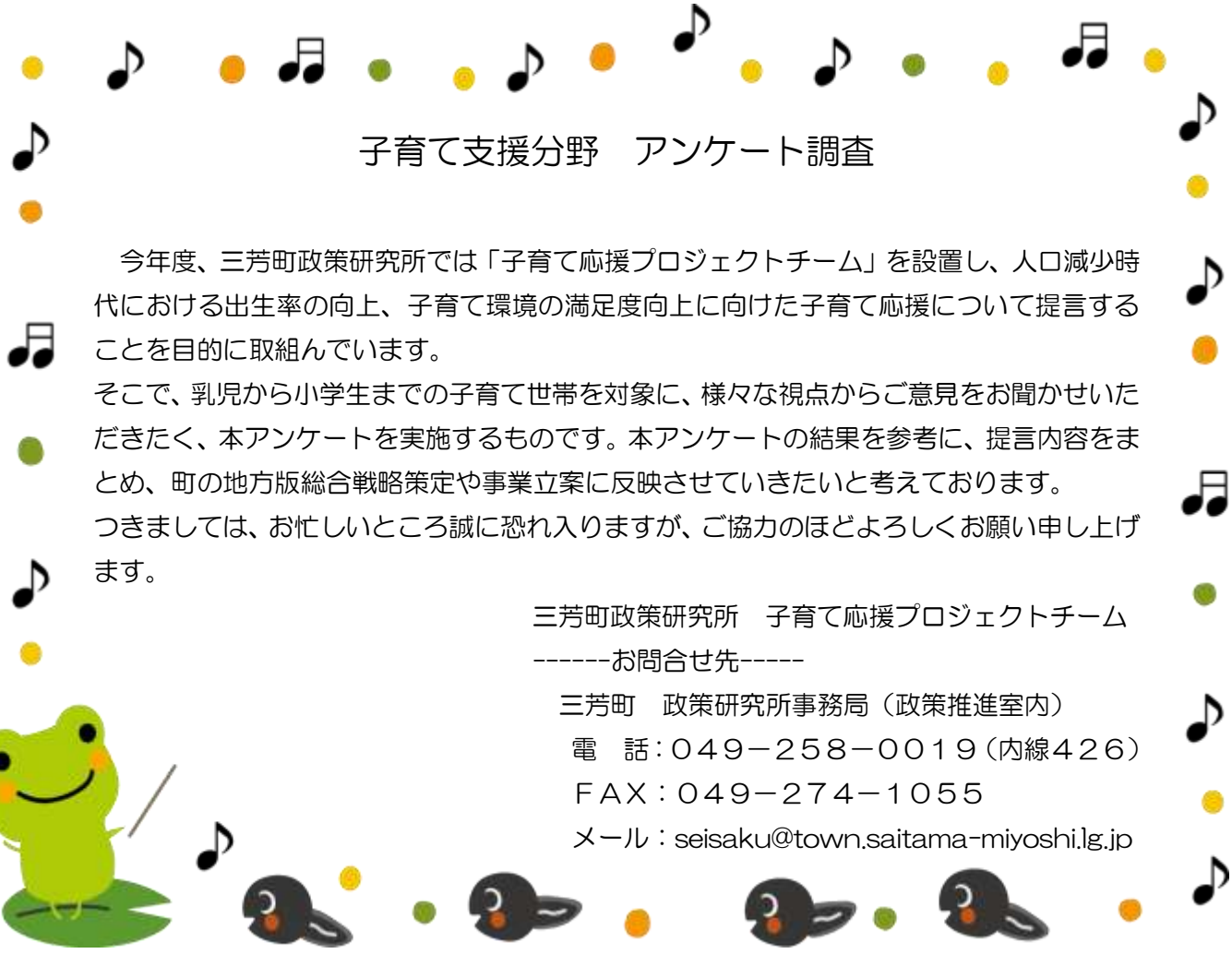
- よくわからない。
- 三芳町でやれば良い。

### 事例⑭

#### 企業に対する啓発・研修

企業の育児休業制度など、労働環境の整備を促進する活動を進める。  
社会的な問題を改善する事業とする。





## 子育て支援分野 アンケート調査

今年度、三芳町政策研究所では「子育て応援プロジェクトチーム」を設置し、人口減少時代における出生率の向上、子育て環境の満足度向上に向けた子育て応援について提言することを目的に取り組んでいます。

そこで、乳児から小学生までの子育て世帯を対象に、様々な視点からご意見をお聞かせいただきたく、本アンケートを実施するものです。本アンケートの結果を参考に、提言内容をまとめ、町の地方版総合戦略策定や事業立案に反映させていきたいと考えております。つきましては、お忙しいところ誠に恐れ入りますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

三芳町政策研究所 子育て応援プロジェクトチーム  
-----お問合せ先-----

三芳町 政策研究所事務局（政策推進室内）  
電 話：049-258-0019（内線426）  
FAX：049-274-1055  
メール：seisaku@town.saitama-miyoshi.lg.jp



【問1】世帯のお子さんの人数と年齢をご記入ください。

\_\_\_\_\_人（うち 乳児(0～2歳)\_\_\_\_人、幼児(3～5歳)\_\_\_\_人、小学生\_\_\_\_人）

【問2】ご回答いただいている方の年代を○で囲んでください。

10歳代      20歳代      30歳代      40歳代      50歳代～

【問3】必要としている子育て支援分野について教えてください。

（あてはまるものすべてに○）

- 1 子育て相談
- 2 保育所・家庭保育室・学童保育室等の施設サービス
- 3 子育て情報の入手・交換
- 4 経済的支援制度
- 5 子どもの居場所
- 6 子どもや親の健康（健診・指導等）
- 7 食育の推進
- 8 親の教育・講座
- 9 各種ボランティア活動
- 10 その他（ \_\_\_\_\_ ）

【問4】町が実施している子育て関連の制度の活用状況について教えてください。

- 1 広報等で制度を調べ、できる限り活用しようとしている。
- 2 周囲の人から情報を得て、活用している。
- 3 調べる手段がわからず、あまり活用できていない。

【問5】子育てに関してどのような情報がほしいでしょうか。

( )

【問6】次の提案事例（14事例）について関心度を教えてください。

**事例1 子育て情報誌（パンフレット）の作成**

子育ての情報不足による孤立を防ぐため、様々な子育て情報をパンフレット等により提供する。なお、編集については口コミ情報なども盛り込み、住民参加形式により実施する。

- 1 編集・情報収集から参加したい。
- 2 編集等の参加は厳しいが、情報誌等の活用はしたい。
- 3 情報誌よりも最新情報が必要なので、他のツールを活用したい。
- 4 活用はしなくてもいい。
- 5 その他 ( )

**事例2 子育て支援アプリの提供**

子育てに役立つ情報を中心として、住民主体の情報提供するアプリの開発・提供。付随機能として、お遊びソフトなど、子どもも使えるなど、幅広い利用を想定。

- 1 アプリの企画段階から参加し、運営にも参加してみたい。
- 2 アプリの企画に参加し、利用したい。
- 3 アプリがあれば利用したい。
- 4 アプリは利用しないと思う。
- 5 その他 ( )

**事例3 放課後見守り支援**

就学児童を対象として、学校の余裕教室を活用した子どもの居場所を提供する。なお、地域の高齢者の方々のボランティアにより見守り体制を構築する。

- 1 子どもの居場所、ご自身の就労支援として利用してみたい。  
⇒有料の場合、いくらまでなら許容できますか？ ( ) 円/月  
参考情報：学童保育室 月額 7,000 円
- 2 見守り体制に不安を感じるため、利用は控えさせたい。
- 3 その他 ( )

#### 事例4 若年層への結婚・子育て魅力PR活動

結婚しなくてもよいという若者が増える中で、結婚生活や子育ての楽しさ、家族の素晴らしさを伝え、意識の変化を期待する事業。

- 1 企画から参加したい。
- 2 企画等には参加できないが、意識を変えることは必要だと思う。
- 3 意識を変えることは難しいと思う。
- 4 その他（ ）

#### 事例5 子育てコンシェルジュ制度の構築

子育てにおける制度・サービスを紹介、提案する専門家を設置する制度。時間のない子育て世帯に柔軟に対応する相談サポートサービスの提供を想定。

- 1 積極的に活用したい。
- 2 現在の町の相談体制で十分だと思う。
- 3 周囲の友人、知人からの情報収集で十分だと思う。
- 4 その他（ ）

#### 事例6 パパ友・ママ友をつくる事業

既存の事業に参加するタイミングを逃した人など、不特定多数を対象としたパパ友・ママ友などのつながりを作る事業を開催する。

- 1 事業の企画から参加したい。
- 2 事業があれば参加したい。
- 3 既存の町の事業で十分だと思う。
- 4 その他（ ）

#### 事例7 病児保育の充実

就労を支援するため、病児保育の受け入れ拠点を民間保育室等に設置を依頼。

- 1 利用したい  
⇒いくらまでなら許容できますか（ ）円/日
- 2 現在の制度を活用する。(針ヶ谷保育園 2,000円/日)
- 3 休暇をとり、対応する。
- 4 就業していないので、看護が可能。
- 5 その他（ ）

### 事例8 父親の子育て講座の開催

子育てに参加したいが、どのようにすればよいのか分からないという父親を対象として、実践的な講座を開催。

- 1 事業の企画から参加したい。
- 2 参加したい。(参加させたい)
- 3 特に必要はない。
- 4 その他 ( )

### 事例9 就労支援事業

三芳町に多く立地する工場や倉庫のパート・アルバイト情報等を求職者の条件とマッチングする民間サービスの起業促進。

- 1 求職時に活用したい。
- 2 ハローワーク等で十分である。
- 3 その他 ( )

### 事例10 親子体験ツアーの開催

三芳町での思い出をたくさん作り、地域への愛着を深めるため、親子参加型体験ツアーを開催する。(農業体験、昆虫採集、工場見学等)

- 1 企画段階から参加したい。
- 2 事業が開催されれば参加したい。
- 3 特に必要はない。
- 4 その他 ( )

### 事例11 食育カフェ事業

子育て家庭を対象としたカフェを設置し、食への関心を高めるとともに地場産品の活用等のなど地域性を考慮したイベントとし、情報交換の場を提供する。

- 1 すべての企画・運営に参加したい。
- 2 お子様ランチ等の食育メニュー開発に参加したい。
- 3 特に必要はない。
- 4 その他 ( )

### 事例12 キッズコーナー設置事業

子どもに目の届く範囲で、親同士の情報交換が可能なスペースの設置をする。(カフェ等民間施設との持続可能な共同事業として検討する。)

- 1 運営にも参加していきたい。
- 2 積極的に利用したい。
- 3 他の民間施設を利用している。
- 4 その他 ( )

### 事例 13 子育てサークルの法人化

子育てサークルをNPOにして、講演会等の事業により仕事の場を創出する。

- 1 NPOへの参加に関心がある。
- 2 様子を見て考えたい。
- 3 参加する意向はない。
- 4 その他（ ）

### 事例 14 企業に対する啓発・研修

企業の育児休業制度など、労働環境の整備を促進する活動を進める。

- 1 講師等、企業側への啓発活動に参加したい。
- 2 事業としての必要性を感じる。
- 3 各企業の努力に期待する。
- 4 その他（ ）

【問7】上記の14事例について、もっと知りたい点やもっと改善したほうが良い点、また、その他に「子育てに関するこんな企画をやってみたい」など、ご意見・アイデア等について、ご自由にご記入ください。

設問は以上となります。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。



## 2 みよし野菜を使った「お子様ランチクッキング！」 開催概要

### ①開催日時・場所

日時	平成 28 年 3 月 4 日（金） 10:00～12:30
会場	三芳町立中央公民館クッキングスタジオ

### ②参加者数

応募者数	9 名
参加者数	8 名
欠席者数	1 名
保育人数	9 名

みよし野菜を使った


# お子様ランチクッキング！

みよし野菜を使い、みんなで楽しくお子様ランチを作りましょう！

メニュー

「お子様プレート みよし野菜を使ったランチ」

骨アップおにぎり      キャベツ入りつくね  
さつまいものレモン煮      かぶのポタージュ  
ミルクプリン      キウイソース



**日時** 平成 28 年 3 月 4 日（金） 10:00～12:30  
**会場** 三芳町立中央公民館  
※お子様を先回りご了承ください。保育を希望される方はご連絡をお願いします。  
**対象** 三芳町内在住の子育て中の方（就学前の幼児）  
**内容** みよし野菜を使った「お子様ランチ」クッキング  
ワールドカフェのご案内  
**参加費** 無料（イベント後、アンケートのご協力をお願いします）  
**定員** 16 人（募集人数を超える場合は抽選となります）  
**持ち物** エフロン、三角巾、手拭きタオル、筆記用具  
**募集締切** 平成 28 年 2 月 29 日（月）まで  
※キャンセルする場合は、お早めにご連絡をお願いします。

※申込方法は裏面をご覧ください      主催：三芳町      協力：大東ガス株式会社



③参加者アンケート

【問1】本日のイベント内容について。

1 非常に良かった	6人
2 良かった	2人
3 ふつう	0人
4 あまり良くなかった	0人
5 良くなかった	0人

【問2】「三芳町産の野菜」についてお伺いします。「三芳町産の野菜」をよく買いますか。

1 魅力的なので買う	3人（複数回答あり）
2 売っている場所がわかれば買いたい	3人（複数回答あり）
3 野菜については特にこだわりはなく買う	2人
4 他の産地のものを買う	0人
5 その他	1人（スーパーでたまに買う）

【問3】三芳町ならではの「お子様ランチ」を今後盛り上げていくことについてどう思いますか。

1 おもしろいと思う	8人
2 他のもので盛り上げた方がいい	0人
3 その他	0人

【問4】参加者同士の方との交流は生まれましたか。

1 交流できた	8人
2 あまり交流できなかった	0人
3 その他	0人

【問5】子育て等のサークル活動に参加していますか。

1 参加している	6人
2 参加していない	1人
3 今後参加するつもり	1人
4 今後参加するつもりはない	0人

**【問6】** 問5で2と4を答えた方にお聞きします。参加しない理由について。

(該当者1人)

1 必要性を感じない・興味がない	0人
2 時間がない・忙しい	1人
3 サークルとの時間が合わない	0人
4 その他	0人

**【問7】** 問5で3を答えた方にお聞きします。どのようなサークルに参加したいですか。

(該当者1人)

1 情報交換・コミュニケーションの場	1人 (複数回答あり)
2 子育てに関する相談・学習	1人 (複数回答あり)
3 子育ての助け合い (居場所づくり等)	1人 (複数回答あり)
4 その他	0人

**【問8】** 必要としている子育て支援等がございましたらご記入ください。

- ・テレビで東京に大きな遊び施設があるのを見て三芳にも欲しいと思った。
- ・お父さんも一緒にできるものがほしい。パパと子だけのイベントとか。
- ・簡単にお預かりができる場所がほしい。今回のように、子供を預けて参加できるイベントが多くあるとよい。

**【問9】** その他お気づきの点がございましたらご記入ください。

- ・今後も開いてください。今回、来られない友人がたくさんいました。楽しかったので、次回もぜひ。
- ・子供と一緒に料理できたら楽しいと思います。
- ・このようなイベントを今後もたくさん増やしていただけると嬉しいです。
- ・このような機会をぜひたくさん企画してください。
- ・おやつ作りとかもしてみたい。
- ・時間通りに始まるとよいです。準備が色々としてあり、ありがたかったのですが、あわただしく終わってしまったので、ゆっくり作業がしたかった。よい機会をありがとうございました。

### 3 みよし子育てカフェ 開催概要

#### ①開催日時・場所

日時	平成 28 年 3 月 17 日 (木) 10:00~12:00
会場	三芳町総合体育館 3階会議室

#### ②参加者数


応募者数	6名
参加者数	6名
保育人数	6名

# みよし子育てカフェ

～みんなで話そう、これからの子育てのこと、三芳のみらいを～  
お茶やお菓子を楽しみながら、これからの  
子育てのことを一緒にお話しませんか？

三芳町では、子育ての希望をかなえる魅力ある環境をつくり、子育て世代に選ばれる町を目指しています。そのため、多くの人が活躍できる地域ぐるみの子育ての実現に取り組んでいます。

そこで、「地域活動参加へのきっかけづくり」と「地域の子育て支援の人材育成」を目的として、子育てをテーマにしたおしゃべりカフェを開催します。



日程

平成 28 年 **3** 月 **17** 日 (木) 10:00~12:00


場所

三芳町総合体育館 3階会議室 (三芳町藤久保 1100-1)  
※お子様をお預かりできます。保育を希望される方は、ご連絡をお願いします。

内容

◇おはなし 地域の子育てをささえる千カラ～NPO 設立までの道～  
「講師 森田圭子氏 (NPO 法人おこう子育てネットワーク代表理事)」

◇おしゃべりテーマ「あなたができる子育て支援」



参加無料

※おしゃべりカフェでなにをするの？

子どもができて感じたこと、子育てをされていて感じたこと。そんなことを、ゆっくりお茶やお菓子などを楽しみながらおしゃべりし、「自分ができること」に気付いたり、できることを探したりしてみる場です。ママにしができないことで、地域ぐるみの子育ての実現を目指しませんか。

●申込方法は裏面をご覧ください

### ③参加者アンケート

【問1】本日のイベント内容について。

1 非常に良かった	4人
2 良かった	2人
3 ふつう	0人
4 あまり良くなかった	0人
5 良くなかった	0人

【問2】本日のイベントをお知りになったきっかけ。

1 町のホームページ	0人
2 公共施設（図書館や児童館など）のチラシ	1人
3 幼稚園の配布物	0人
4 ファミリー・サポート・センターからの紹介	0人
5 知人の紹介	4人（知人のLINEからの連絡で知った等）
6 その他	1人（お子様ランチクッキング）

【問3】参加者同士の方との交流は生まれましたか。

1 交流できた	6人
2 あまり交流できなかった	0人
3 その他	0人

【問4】将来的に地域の子育て支援に携わってみたいですか。

1 すでに携わっている	1人
2 携わりたい	4人
3 携わりたくない	0人
4 わからない	1人
5 その他	0人

**【問5】**問4で1か2を答えた方にお聞きします。どのような子育て支援に携わりたいですか。(該当者5人)

1	コミュニケーション・居場所づくり	4人(複数回答あり)
2	子育てに関する相談・学習	1人(複数回答あり)
3	子どもが参加する教室の開催 (絵本の読み聞かせ・赤ちゃん体操)	3人(複数回答あり)
4	子育て体験イベントの開催 (手遊び・ふれあい遊び・手作りおもちゃ)	3人(複数回答あり)
5	その他	0人

**【問6】**地域の子育てを支えるNPO法人等の設立に関心がありますか。

1	関心がある	1人
2	もう少しNPO法人等について知りたい	4人
3	あまり関心がない	1人
4	その他	

**【問7】**その他お気づきの点がございましたらご記入ください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てカフェに参加する事で自分の気持ち(子育てについて)に整理がつけました。またこのような会を企画して頂けるとうれしいです。本日はありがとうございました。</li> <li>・クッキングの時にチラシをいただいたのですが、広報には載っていなかったような気がします。とてもよいイベントなのに参加人数が思っていたより少ないので、もう少し広く宣伝してもらえると良いと思いました。次回もあれば参加したいと思います。その時は友達も誘います。ぜひ開催してください。</li> <li>・自分ができる子育て支援、皆さんの意見、先生の話しを聞き、今日から出来ることを行っていこうと思います。参加して良かったです。ありがとうございました。また、このような企画があったら参加したいと思います。</li> <li>・子育てについて、このような形で話す機会はなかなかないので、今回すごく貴重な時間を過ごせました。保育つきというのもとてもありがたかったです!!また機会があれば参加したいと思います。</li> </ul>
--

- まだ知らない子育て支援事業があるのだなと思いました。今後地域で子育てしやすくなるよう、考えていきたいと思います。もっとママ同士の交流の時間があればなお良かったと思います。
- 他のママの話しが聞けて良かった。こういう場所が定期的にあると良い。子供を見てもらえるのは助かる。もう一つ言いたかったことは、公園の遊具を増やしてほしい！！

### 三芳町子育て応援懇談会委員

所 属	名 前
淑徳大学教育学部教授	河津 英彦
元保育所所長	川越 節子
NPO 法人生活支援グループパラソル	天沼 佐智代
ジュニアボランティア	加藤 美子
元りんりんネット	大島 香
竹の子エコクラブ	村上 久美子
NPO 法人街のひろば	松浦 康介
社会教育委員 等	仲野 忠男
教育相談員	石川 京子
管理栄養士	長岐 美智子

### 「子育て応援」プロジェクトチームメンバー

	所 属	名 前
研究員	こども支援課 北永井児童館 館長	田中 博美
研究員	健康増進課 地域包括支援センター	荒井 晴美
研究員	自治安心課 自治協働担当	小林 広和
研究員	環境課 自然環境担当	石崎 裕司
研究員	総務課 職員担当	篠崎 直人
研究員	秘書広報室 秘書広報担当	大木 ちえ
研究員 兼 事務局	政策推進室 副室長	百富 由美香
研究員 兼 事務局	政策推進室 政策推進担当 主幹	島田 高志
研究員 兼 事務局	政策推進室 政策推進担当	南雲 玲